

AMDA ジャーナル ダイジェスト

発行：2017年6月 No.48 定価 150円
 発行元：〒700-0013 岡山市北区伊福町3-31-1
 認定特定非営利活動法人 アムダ：AMDA
 TEL 086-252-7700 FAX 086-252-7717
 E-mail:member@amda.or.jp
 編集：AMDA ボランティアセンター
 ホームページ：http://www.amda.or.jp

ペルー洪水緊急医療支援活動

海面水温上昇によるエルニーニョ現象で今年に入ってペルー各地で豪雨が頻発。洪水や土石流が発生するなど被害が続出しました。ペルー国家緊急オペレーションセンターによると、現地時間4月5日現在で106人が死亡、15万7600人が被災しました。

最も被害が大きかったペルー北部ピウラでは、1月30日ごろから雨が降り続き、3月27日にピウラ川が氾濫、多くの世帯で水や食料が不足していました。首都リマでも5本の川が氾濫、過去最大規模の洪水が発生し市内に水が流れ込みました。

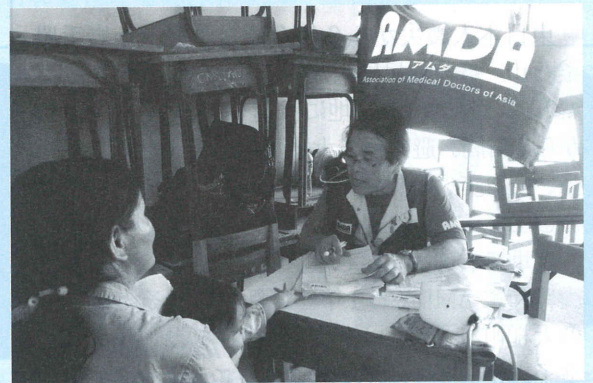
3月21日、AMDA 本部は AMDA ペルー支部から支援要請を受けました。しかし、二次災害の懸念から被災地への立ち入りは制限され、医師と調整員の2人が日本から現地入りしたのは4月2日でした。

今回、緊急支援活動に参加した医師は AMDA 沖縄支部メンバーの渡久地宏文氏で、ペルー生まれの日系2世です。4月11日までの10日間現地に滞在し AMDA ペルー支部と現地協力団体 (SES : Socios En Salud) とともに6カ所で医療支援活動を行いました。医療者を含む現地スタッフ約20人で512人を診察し、受診した方から「なかなか病院に行けない中、こうして医師に診てもらえてうれしい」という声が聞かれました。なかでもピウラでは洪水によって道が寸断された地域の避難所にボートと徒歩で支援に入りました。

今後は蚊が媒介する感染症のジカ熱やデング熱の大流行を防ぐことが必要とされます。AMDA は引き続き現地を注視していく方針です。



洪水によって寸断された地域へ向かう一行



被害の大きいピウラ市内で診療する渡久地医師（右）

■ AMDA からの派遣者

渡久地宏文 / 医師 / AMDA 沖縄メンバー
 松永健太郎 / 調整員 / AMDA プロジェクトオフィサー

スリランカごみ処分場堆積物崩落緊急支援活動



ごみの崩落により被害が発生した現地

スリランカの正月にあたる2017年4月14日、首都コロombo近郊のミートタムツラで、ごみ処分場の堆積物が崩落し、周辺住民1800人に被害が及びました。

同国災害管理センターによると、30人が死亡、8人が行方不明となり、11人が負傷しました。228世帯の980人が住む場所を追われ、安全な場所に避難。同センターをはじめ、陸海空軍、警察が支援しています。

AMDA スリランカ支部は、現地協力団体である St. John Ambulance のコロombo事務所と合同で救援チームを派遣。診療活動を行ったほか、医薬品や食料など必要物資を寄付しました。コロombo東病院から派遣された医師や看護師も被災者の救援に当たりました。

東日本大震災から6年

地域コミュニティ再生へ AMDA 大槌健康サポートセンターの活動

東日本大震災が発生した2011年の12月、岩手県大槌町に開設されたAMDA 大槌健康サポートセンター（センター長・佐々木賀奈子鍼灸師）。「町民のこころとからだの健康をサポートするふれあいスペース」として、鍼灸治療とともに震災後のコミュニティ形成を目指し多彩な活動を続けています。

震災7年目に入り、町民の健康診断結果は衝撃的なものでした。小中学生の肥満度が男子で全国ワースト、女子もワースト3でした。長引く仮設住宅の暮らしなどで子どもたちが運動不足になったのが主な要因です。お年寄りからも栄養の偏りから糖尿病や高血圧の患者が増えていました。

佐々木鍼灸師は毎月1～2回、町民に参加を呼び掛けて合同体操を始めたほか、鍼灸治療に訪れた患者に対して運動を勧めています。バッグや小物などを作る「さをり織り」は手足を使うため、膝の痛みが軽くなり、夜も眠れるようになったという人も増えています。

郷土料理教室、木工細工、ひょうたんランプづくりなど様々な取り組みを企画する佐々木鍼灸師は「町民同士が“心のふれあい”を取り戻し、お互いが支え合う震災前の絆を取り戻したい」と願っています。



さをり織り教室の様子

鍼灸受診者数	
11月	79人
12月	65人
1月	56人
2月	79人
3月	74人
4月	84人
5月	69人

釜石山林火災緊急支援活動

東日本大震災から6年2カ月が経った岩手県釜石市。5月8日に大規模な山林火災が発生し、AMDAは看護師を現地に派遣しました。5月9日から3日間、避難所で大震災に続き不便な生活を強いられている住民らに寄り添い、温かく励ましました。

現地で看護師とともに活動したのは、東日本大震災時にAMDAで4年ほど活動し、その後古里の大槌町で「NPO法人つどい」を設立した元持幸子調整員です。地域のコミュニティ再生を目指し、イベントやセミナーを開くなど活躍しています。

2人が訪れた避難所の旧釜石商高体育館では、同じ体勢で長時間過ごす人が多いことが分かり、体操による気分転換を図りました。子どもや高齢者ら12人が輪になり、手首や肩を回したり、腰をひねるなど体を動かすことで住民らに笑顔が広がりました。

避難者の中には大震災で自宅を失い、昨年5月に再建したばかりの人もいました。山林火災による延焼の懸念がぬぐえず、緊張感が解けない人々に、2人は火災情報などを細かく伝え、不安を取り除くよう努めました。

被災者からは「遠い岡山からわざわざありがとう」と労いの言葉をいただきました。大震災の際、被災地に駆け付けたAMDAと地元住民との絆は、今回の支援でさらに強まりました。

■派遣者

元持幸子 / 調整員、理学療法士 / NPO法人つどい事務局長
橋本千明 / 看護師 / AMDA プロジェクトオフィサー

南三陸町で「復興グルメF-1大会」

第14回目となる「復興グルメF-1大会」（同実行委主催、AMDA協賛）が3月26日、宮城県南三陸町の志津川仮設魚市場で開かれました。東日本大震災の被災地の商店街等が丹精を込めた料理をふるまい、来場者がナンバー1を決める催しで、地域の活性化を目指しています。

今回は岩手、宮城、福島県から14チームが参加し、地元食材を使い工夫を凝らした絶品グルメを1品400円で販売。会場には多数の家族連れらが集まり、長い行列ができるブースもありました。今回から売り上げの一部を運営費に積み立てるほか、投票用紙には来場者にコメントを記入していただき、今後の大会運営に役立てます。岡山からはAMDAが「ボランティアバス」を運行。60代の方から高校生まで39人が参加し、大会当日の準備や運営、片づけなどを行いました。

Tsubomiの活動

岩手県大槌町にある一般社団法人「Tsubomi」は東日本大震災の復興を目指し、AMDAの委託事業として様々な活動に取り組んでいます。

「ママの笑顔は子どもの笑顔」をテーマにした子育てフェスや講座の開催をはじめ、食生活の意識改革を促すプロジェクト「天然酵母パン教室」、仮設住宅などに住む住民のコミュニティづくりとストレス解消を目指す「食と音で奏でる心のハーモニー」などを行い、住民から喜ばれています。

気仙沼市に本設商店街 7月に待望の竣工式

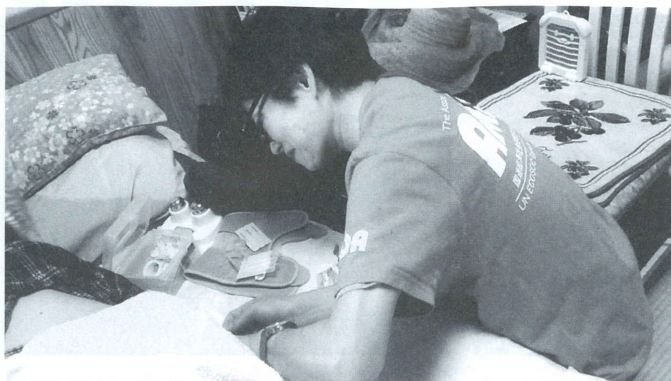
東日本大震災で被害を受けた気仙沼市南町内湾地区に7月、本設商店街が誕生します。名称は南町紫神社前商店街。地域のにぎわい創出に大きな期待が寄せられています。

計画によると、店舗専用の鉄筋2階と、店舗（1階のみ）と災害公営住宅（2階以上）からなる鉄筋5階が併設されます。

同商店街の坂本正人事務局長（AMDA 参与、復興グルメ F-1 大会代表世話人）は「長期ローンの返済など課題は多いが、気仙沼の顔となるよう頑張りたい」と意欲を燃やしています。

※東日本国際奨学金の支給は現在の残額をもって今年度で終了することとなり、受付は6月中をもちまして終了いたします。これまでのご支援に感謝申し上げます。

熊本地震から1年 — 復興将来像を掲げ確実な歩み



仮設団地で、広安小に避難していた方から依頼があり訪問治療を行う AMDA 災害鍼灸熊本チーム

震度7の地震を2度も観測した熊本地震。あれから1年が経ち、4月15日、震源地となった益城町で行われた追悼式典に AMDA スタッフも参加しました。益城町ではいまだに小さな余震が続いており、「また大きな余震がくるのではないか」という不安感がこれまで必死に頑張ってきた人々の心を襲います。町の建物の9割が被災し、そ

の7割以上が解体され、町のあちこちに更地が多く見られるようになりました。

そのような中でも震災直後、AMDA が緊急医療支援活動を行った益城町立広安小学校では、125 名の新入生を迎え、701 名の児童の元気な声が響いていました。

また AMDA の支援活動に関わった神戸や宮崎の医師や鍼灸師も AMDA 災害鍼灸熊本チームとともに益城町の一番大きな仮設団地であるテクノ仮設団地（516 戸）に集まり、当時広安小学校の避難所にいらっしゃった方々との再会を喜び合いました。

6 月からは災害公営住宅についての説明会が始まっています。行政、住民ともに「住み続けたいまち、次世代に継承したいまち」という復興将来像を掲げて、復興に向けての確実な歩みを進めています。

AMDA も現在、益城町役場の方々と、AMDA 災害鍼灸チームとともに支援の方向性についての協議を行っています。AMDA はこれからも益城町を応援していきます。

インドネシア口唇口蓋裂無料手術事業

5月8日、9日に、今回で3度目となる口唇口蓋裂無料手術がインドネシアのスラウェシ島南部バンタヤン (Bantaeng) 地区で行われました。毎年恒例となったこのプロジェクトは台湾 IHA (Taiwan International Health Action) と合同で行っています。

昨年に引き続き、口唇口蓋裂に苦しむ人々に無料の形成外科手術がバンタヤン総合病院で行われました。

台湾から医師など 11 名、AMDA 本部からコーディネーター 1 名を含むスタッフ、現地ではマカッサルのセレベスクレフトセンター (CCC) から 5 名の口腔顎顔面外科医と 4 名の麻酔科医が加わり、現地の手術室看護師 10 名とともに手術にあたりました。

2 日間で計 23 名の患者に対する手術が朝から夜遅くまで行われました。

手術を受けた本人や家族から、「当人や子ども達の人生



手術を受けた男子



昨年無料手術を受けた女性の術前と現在の様子

に大きな転機をもたらしてくれた。心から感謝したい」との温かい言葉をいただきました。

また、昨年の口唇口蓋裂手術を受けた患者の写真も紹介され、多くの人々が自信を取り戻し、幸せな日々を送っていると報告がありました。

■ AMDA からの派遣者

ニッティヤン・ヴィーラヴァーグ / 調整員 / AMDA インターナショナル事務局長

5月13日、14日にコンベックス岡山で開かれた株式会社ザグザグ主催の「ザグフェス2017」に AMDA ブースを設けました。会場では東日本大震災での診療風景、最近の復興支援活動などを紹介するパネルを展示。多くの家族連れらが AMDA ブースに立ち寄り、募金などの協力をいただきました。また、AMDA 玉野クラブを通じて東北支援の物産を販売しました。

当日ブースにたくさんの方が立ち寄ってくださいました →



南海トラフ災害対応プラットフォーム / 阿南市と牟岐町、海陽町と連携協力協定

AMDAは5月30日、南海トラフ災害で被災の恐れがある徳島県の阿南市と牟岐町、海陽町の1市2町と連携協力協定を締結しました。

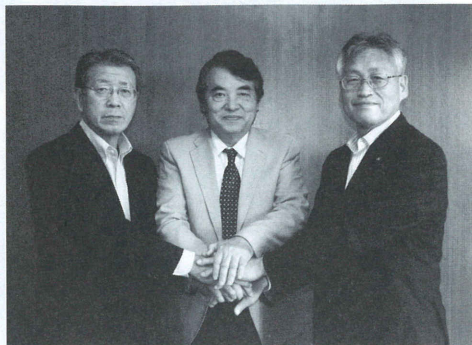
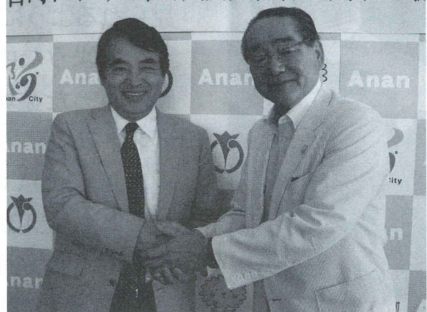
AMDAは大震災が発生した際、徳島県、高知県の計10カ所に緊急医療支援チームを派遣する計画で順次、協定を結んできており、今回の協定で派遣予定のすべての市町と協定を締結したことになります。両県と各市町との協定のもと、南海トラフ災害への準備がより一層進むこととなります。

阿南市役所で行われた調印式では、AMDAグループの菅波茂代表と岩浅嘉仁市長が協定書に署名・押印をし、がっちりと握手。菅波代表は「締結を機に本格的な態勢づくりを進めたい」と述べ、岩浅市長は「世界で活動するAMDAの協力はとても心強い」と期待を寄せました。

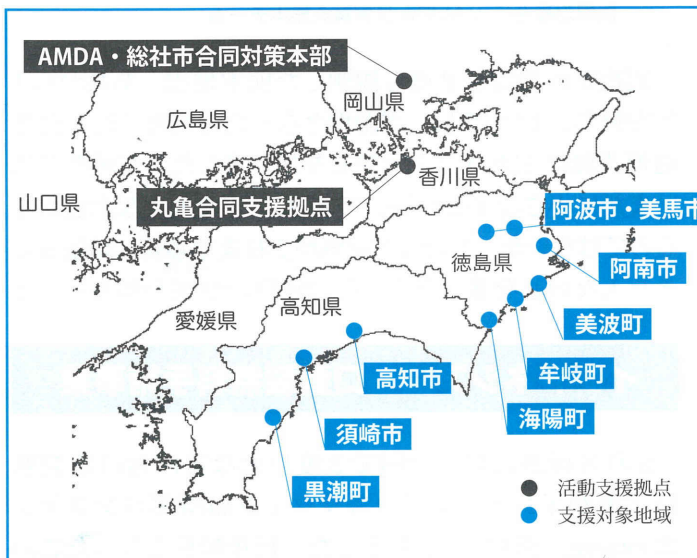
続いて、海陽町役場にて調印式を執り行い、菅波代表と牟岐町の福井雅彦町長、海陽町の前田恵町長がそれぞれ協定書に署名・押印をしました。

協定書は、各自治体がAMDAに医療チームの派遣を要請。AMDAは避難所での応急処置など医療活動をする、通信の途絶により派遣要請がない場合は、AMDAが自らの判断で医療チームを派遣することが出来るとしています。

菅波代表(左)、阿南市 岩浅市長(右)



海陽町 前田町長(左)、菅波代表(中央)、牟岐町 福井町長



第4回南海トラフ災害対応プラットフォーム調整会議

南海トラフ巨大地震を想定し、AMDAは迅速で確実な医療チーム派遣のため、これまで3回の調整会議を開催しました。今回は派遣準備の進捗状況と「輸送と通信のシミュレーション」の計画発表などをテーマに行います。

参加費無料です。お席に限りがありますので、事前のお申込みが必要です。詳しくはAMDAホームページをご覧ください。

日時：7月23日(日) 13:20～17:30

会場：岡山国際交流センター 8階 イベントホール
(岡山市北区奉還町2丁目2-1)

第4回災害鍼灸チーム育成プログラム

日時：7月22日(土) 13:00～17:30
7月23日(日) 9:15～11:30

会場：岡山国際交流センター

募集対象：鍼灸師および鍼灸師を目指す学生

参加費：3,000円

定員：30名

AMDAの集いin関西～南海トラフ災害と国内外の大規模災害に備えた取り組み～

災害時緊急救援活動に興味をお持ちの方はもちろん、AMDAをすでにご存じの方、緊急救援ネットワークにご登録いただいている方など大歓迎です。現在、AMDAが行っている活動をご紹介します。

※お席に限りがありますので、事前にお申込みをお願いいたします。

日時：7月1日(土) 16:00～17:45
(受付 15:45～)

会場：毎日新聞社神戸支局 3階 セミナーホール
(神戸市中央区栄町通4丁目3-5)

参加費：無料 AMDA、AMDA兵庫：共催
【お問い合わせ・申し込み】 AMDA

AMDAの活動は皆様からのご寄付で実施されています

認定NPO法人AMDAへのご寄付は所得控除の対象になります。ご寄付の際にプロジェクト別のご寄付指定も可能です。



書き損じハガキ、未使用切手を集めております。通信費の節約に役立たせていただきますので、ぜひご協力をお願いいたします。



VISA・JCBなどのクレジットカードでのご寄附も取扱いできます。またPAYPAL決済も導入しております。詳しくはWEBをご覧ください。

温かいご支援ありがとうございました。指定プロジェクトが終了した場合、AMDAの活動全般に振替させていただきます。